

# ワカサギ、シラウオの調査

(宍道湖・中海水産資源維持再生事業)

福井克也・藤川裕司

## 1. 研究目的

宍道湖における重要水産資源であるワカサギ、シラウオの資源動態を調査し、資源の維持・増大を図るための基礎資料を収集する。

## 2. 研究方法

### (1) ワカサギ・シラウオ産卵状況調査

ワカサギについては、平成27年2月に調査を実施し、斐伊川河口から約1.6km上流までの間の15地点と、河口沖合5点でエクマンバージ採泥器(採泥面積0.02㎡)によりワカサギ卵を採集した。また、斐伊川以外の5河川でも下流域の2~3地点で同様に採泥を行った。

シラウオについては、平成27年1月から3月まで宍道湖内の13地点で月1回、スミスマツキンタイヤ採泥器(採泥面積0.05㎡)によりシラウオ卵を採集した。

### (2) 稚魚分布調査

平成26年4月から10月にかけて、宍道湖13地点、大橋川1地点、中海6地点(9月は本庄工区内を含む11地点)で月1回、稚魚ネットもしくは曳網によりワカサギ及びシラウオの分布調査を行った。

### (3) 漁獲動向及び生物測定

宍道湖漁協から定置網漁獲記録(ます網、小袋網)の漁獲状況について聞き取りを行った。また、ワカサギについてはます網で採捕された個体の一部を、シラウオについては漁業者からの提供等により得られた個体を測定した。

## 3. 研究結果

### (1) 産卵の状況(巻末の添付資料参照)

ワカサギについては、斐伊川河口部から1.2km上流の地点までの7地点で卵が確認された。産卵数は河口部が最も多く、上流に向かうにつれ減少した。斐伊川以外では、宍道湖南岸の3河川で産卵が確認された。

シラウオについては、2月に産卵が確認され、

3月に最も多く卵が採取された。産卵は南岸及び北岸に多く見られた。また、産卵場調査において斐伊川沖合と玉湯川河口においてシラウオの卵が確認された。

### (2) 稚魚の分布状況(巻末の添付資料参照)

ワカサギについては、いずれの調査においても採捕されなかった。

シラウオについては、4月の調査で宍道湖南岸と大橋川、朝酌川の合流点で7mm以下の小型仔魚が多数採捕された。中海では、西岸で1尾のみ採捕された。5月は宍道湖一円で採捕されるが、採捕数は減少した。また、中海西岸部で少数採捕された。6月、7月は宍道湖西岸及び北岸の流入河川の河口域、中海の意宇川河口のみで採捕された。その後は10月の調査で中海の大橋川河口部で2尾採捕されたのみであった。

### (3) 漁獲動向

ワカサギについては、平成26年12月23日から平成27年2月6日までの期間、615尾が漁獲された。一部の個体の測定を行ったところ、平均体長は95mmであったが、体長の分布は40~70mmの群と90~120mmの群に分かれた。主群は90~120mmのグループであった。

シラウオについては、11月から12月までは散発的な漁獲であったが、1月から徐々に漁獲が増加した。1月に漁獲されたシラウオの体長は71~100mmの範囲にあり、90mm以上の雌については、外見から卵粒が確認される程まで成熟していた。平成26年漁期の定置網漁獲記録(ます網、小袋網)によれば、26年漁期は1,031kgと前年漁獲量の3.3倍となったが、豊漁であった平成24年漁期の1/4程度に留まった。

## 4. 研究成果

得られた結果は、宍道湖漁協のます網組合の役員会および総会、また宍道湖・中海水産資源維持再生事業検討会で報告した。